

平成 28 年 3 月 2 日

全国紙管工業組合 東部地区部会 研修会報告

日 程 : 平成 28 年 2 月 26 日 (金)
場 所 : 宮城県 石巻市
訪 問 先 : 日本製紙 株式会社 石巻工場。
株式会社 T&T コア。 (日本製紙(株)構内 紙管加工場)
株式会社 竹林紙管。
市内 (日和山 等)

日本製紙株式会社様

事務部 製品課 調査役 中川様、課長代理 大橋様、技術グループ長 畑中様。

今回の見学では日本製紙株式会社石巻工場、株式会社竹林紙管、株式会社 T&T コア (紙管加工業社) の 3 社と市内 (日和山) を、それぞれ見学させて頂きました。

日本製紙株式会社、教育安全センターにて、DVD、パンフレットで概要説明。

- ・震災当日は日本製紙(株)構内、総勢 1,306 名 (関係業者含む) 作業を行っていたが全員が避難し無事。
- ・再建については経営者の強い判断と決断の元、半年後 2011 年 9 月洋紙生産一部再開、1 年半後の 2012 年 8 月に全抄紙機再開。
- ・震災前は 100 万 t/年の生産規模、復興後は 86 万 t/年と 15%削減した生産能力。
- ・エネルギーバランスを改善した事により、より競争力のある強い工場として生まれ変わった。
- ・売電専用ボイラーを建設中、完成は 2018 年春。 (発電量 30 万世帯分)
- ・出荷先は関東圏が多く製品輸送は JR コンテナがメインで 7 便/日、トラック便 35%、(利便性が良い) 船便 13%。
- ・原料となる木材チップは海外からの輸入が多く南米、北米、国内品は東北エリアから。

○抄紙機 N5 マシン・N6 マシン

- ・N5 マシン 紙幅 6.4m 生産量は 500 t/日、主な製品は薄物微塗工紙。
 - ・N6 マシン 紙幅 9.3m 生産量は 1,000 t/日、製品は微塗工紙、コート紙。
- *ライン部分は見学することは出来ませんでした。
- ・震災後の 2012 年からは、PPC 用紙・製品を生産開始。

○日本製紙株式会社 構内

(株)T&T コア様では、主に紙管加工工程を行う工場。新管以外に一度使用した紙管を回収し、紙管の表面に付いているエンドテープ除去し、必要寸法にカット、口金挿入の後、各マシンへ納入。

○市内 日和山

日本製紙(株)様のバスにて移動、市内の日和山、震災時の日本製紙(株)総勢 1,306 名
また地元住民も避難された高台。

そこには震災前の写真があり、現在と比較すると凄まじい被害と感じました。

《震災前》

《現在》



《日本製紙株式会社 石巻工場 正門》



《日本製紙(株) N6 マシン》

《株式会社竹林紙管》



参加者

- ・ 茨城紙管(株)／松田社長。
- ・ 大島紙管(株)／大島専務。
- ・ カル工業(株)／赤柴社長。
- ・ (株)竹林紙管／村上社長、矢野専務。
- ・ (株)斉藤紙器制作所／斉藤社長。
- ・ 日本化工機材(株)／大澤社長。
- ・ 日本紙管工業(株)／楠部長。
- ・ 渡部紙工(株)／渡部社長。
- ・ 立山製紙(株)／岩段部長。
- ・ 関東紙管(株)／田中社長、橋本課長、落合部長代理。
- ・ 三協紙業(株)／神崎顧問、千葉課長代理。
- ・ 中越パッケージ(株)／櫻井社長、三國部長、川島課長。
- ・ 武川産業(株)／武川社長、武川部長、友部部長、川崎部長代理。

総勢 22 名

全国紙管工業組合 東部地区部会 事務局
武川産業株式会社
川崎 健一
以 上